

# 多段階の振り返りを考慮した 教育活動データの共有手法の開発

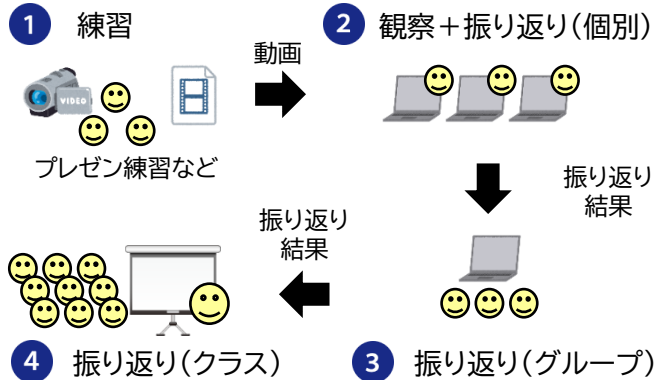
山口昌也 (国立国語研究所)  
森 篤嗣 (京都外国語大学)

北村雅則 (南山大学)  
柳田直美 (一橋大学)

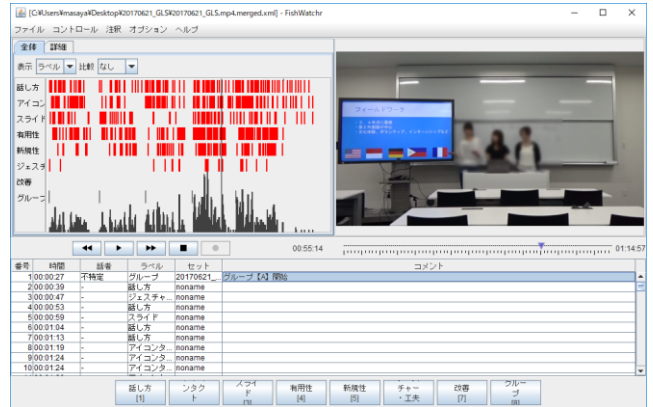


## 本研究の背景と目的

### 多段階の振り返りを含む協同型の教育活動



### 教育活動向け観察支援システムFishWatchr



**目的** 動画や振り返り結果などの教育活動データを迅速に共有する手法の開発

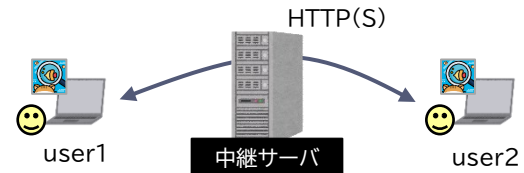
- 気になったシーンにラベルやコメントよりアノテーション (例:「話し方」+「良い」ラベル+コメント)
- アノテーション箇所を再生
- 複数ユーザのアノテーション結果をマージ可能

## 教育活動データの共有手法

### 現在の方法と問題点

- 方法1: USBメモリなどを介しての共有  
⇒ 受け渡しの手間や時間
- 方法2: 共有サーバ(LMS, 商用サービス)  
⇒ 管理コスト(サーバ, 共有管理, 個人情報)

### 基本的な共有方法



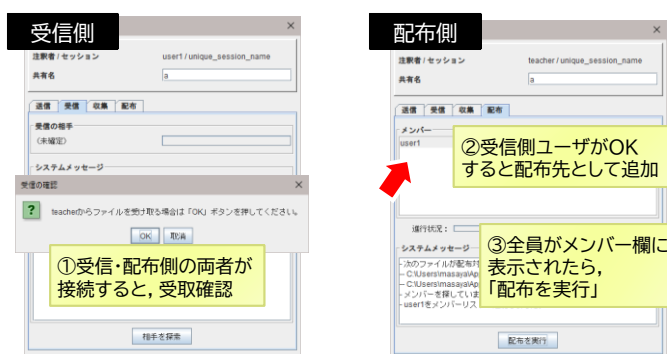
### 本共有手法の特徴

- FishWatchrを拡張する形で共有機能を実装
- 機能は「送信」「受信」「配布」「収集」の4種類
- インターネット上の中継サーバを介した共有
- 利用者のサーバアカウントの作成が不要

- セッション名と共有名が同一のFW間で通信  
セッション名: 授業のはじめなどに、  
授業の参加者全員が1度だけ設定
- 共有名: グループ内での共有など用途ごとに設定
- ユーザ名は参加者内で重複がないよう決めておく

## 共有手法の実装結果

### 共有機能の実行情例 (「配布」と「受信」の場合)



### 共有機能の適用例(冒頭の流れの場合)

